

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4570800237
法人名	医療法人 隆徳会
事業所名	グループホーム 菜花園
所在地	西都市大字穂北北字東原5253-105 (電話) 0983-41-1231
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成 21 年 7 月 24 日

【情報提供票より】(21年6月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 4 月 28 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 13 人, 非常勤 6 人, 常勤換算	15.5 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費1,000 円/月
敷金	<input type="checkbox"/> 有(円)	<input checked="" type="checkbox"/> 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input type="checkbox"/> 有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	170 円	昼食 240 円
	夕食	290 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(6月30日現在)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護1	0 名	要介護2	4 名
要介護3	9 名	要介護4	4 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 83.9 歳	最低 62 歳	最高 91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	鶴田病院 鶴田クリニック 聖陵歯科クリニック
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、市街地から離れているが、同敷地内に老人保健施設があり、隣接して小学校や保育園もあり子供の声や姿が身近に見れる環境にある。「残存機能を活かし尊厳のある生活を重視する。地域社会とのつながりを重視…」を盛り込んだ理念が作り上げられ、その人らしい暮らしが継続できることを大切に支援している。代表者は、職員が資格取得のために、働きながら学べる支援を行い、質の向上につなげている。また、現場の職員同士で考え運営できるような柔軟な体制を取り入れたこともあり、職員の意識も高まってきている。同法人が医療機関であり、医療体制は充実している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価に基づいた改善シートを作成し、出来る内容から取り組んでいる。前回の評価で改善に向け取り組めた項目としては、「地域との付き合い」や「居心地よい共有空間づくり」であった。「重度化や終末期に向けた方針の共有」や「鍵をかけないケアの実践」「災害対策」は引き続き全職員で取り組んでほしい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価を全職員が取り組み、カンファレンスで話し合っている。外部評価を基にした改善シートも作成されており、昨年改善項目に上がった地域との付き合いに対しても、職員全体で取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	市役所・地域包括支援センター・地区長・民生委員・家族代表が参加して、2か月に1回運営推進会議を開催している。運営推進会議では、利用者の状態やホームの行事の説明を行い、暮らしぶりを伝えている。運営推進会議を行ったことで、地区の行事の情報を得る機会が増え、グループホームのことを伝える機会が増えている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月、利用者と職員が記載したはがきに、利用者の状況や利用者からのコメントのをせ家族に発送している。来訪時や電話でも随時報告し、継続した関係づくりに努めている。家族の意見や苦情不安に対しては、家族との関係を良くし、意見や苦情を気軽に言ってもらえる雰囲気づくりに努めている。昨年は家族会が開催できなかったため、今年は、家族会を開催し、不満、苦情を相談できるような体制作りに取り組む予定である。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の代表者との交流を密に取り、情報を共有している。近隣の保育園や小学校の行事参加や交流は、特に大切にしている。近隣の保育園より、毎月園便りを園児が持参し交流する機会や保育園に立ち寄る機会があり、利用者の楽しみとなっている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭的な生活環境を提供する。残存機能を活かし尊厳のある生活を重視する。地域社会とのつながりを重視…」を盛り込んだ理念が、5つの項目で作り上げられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	夜勤になった職員は、理念を申し送りの欄に記入するシステムになっており、常に意識付けしている。馴れ合いの関係をなくし、利用者の尊厳ある生活を保ちつつ寄り添ったケアを大切に、職員全体で理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの周辺には民家は殆どなく、地元の人々との交流は難しい環境にあるが、地域の代表者との交流を密に取り、情報を共有している。近隣の保育園や小学校の行事参加や交流は、特に大切にしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員が取り組み、カンファレンスで話し合っている。外部評価を基にした改善シートも作成されており、昨年改善項目に上がった地域との付き合いに対しても、職員全体で取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市役所・地域包括支援センター・地区長・民生委員・家族代表が参加して、2か月に1回運営推進会議を開催している。運営推進会議では、利用者の状態やホームの行事の説明や暮らしぶりを報告し、また、地区の行事の情報を得る機会が増え、グループホームのことを伝える機会が増えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームの代表者や管理者は、市の担当者との情報交換を機会あるごとに行い、サービスの質の向上に繋がるよう取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、利用者と職員が記載したはがきに、利用者の状況や利用者からのコメントをのせ家族に発送している。来訪時や電話でも随時報告し、継続した関係づくりに努めている。		行事やホーム全体の様子が分かるようなホーム便りの活用を検討してほしい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との関係を良くし、意見や苦情を気軽に言ってもらえる雰囲気づくりに努めている。昨年は家族会が開催できなかったため、今年は、家族会を開催し、不満、苦情を相談できるような体制作りに取り組む予定である。		家族会開催の再開をこの機会に定例化し、家族の意見が運営に反映できることをお願いしたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	一昨年までは、職員の異動や離職があったが、昨年の退職者はなく、職員が定着してきている。代表者が、現場の職員同士で考え運営できるような柔軟な体制を取り入れたこともあり、職員の意識が高まってきている。利用者への対応に関しては、極力スキミングやコミュニケーションを図りダメージへの対応を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内外の研修を受ける機会があり、研修後は、カンファレンスを通して復命を聞く機会がある。ホームには、同法人施設と合同の、災害対策・感染予防・身体拘束委員会等が立ち上がっており、この委員会でも勉強する機会がある。資格取得のための一部費用の助成もあり、職員を育てる取り組みがなされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月、グループホーム連絡協議会に参加し、勉強会や他事業所との交流を図っている。同法人のグループホームの交流も行い、よいところを取り入れサービスの質の向上につなげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族・利用者の見学を行い、利用者のダメージを少なくしている。また、職員が自宅訪問し馴染みの関係作りにも配慮している。サービス開始時は特に職員全員で利用者を観察し、利用者の思いに添えるように対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で、共に喜び支えあう関係を大切にし、信頼関係を築く努力をしている。一緒に過ごす時間や寄り添う時間を大切にし、馴染みの関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	受け持ち制にしているが、家族や利用者から得た情報は、常に共有し、思いの把握に努めている。定期的な個別面接を行い、利用者や家族の思いに近づこうと努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者やその家族と電話や訪問時に話し合いを持ち、利用者のニーズを大切に介護計画を作成している。毎月のミーティングで利用者ごとに介護計画の検討を行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に1回介護計画の見直しを行っている。見直しにあたっては、介護支援専門員が、家族・利用者の意向をくみ介護計画に反映させ作成している。毎月のモニタリングは、ミーティング時に行っており、問題点に即したケアの提供がなされやすいシステムになっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や外出の希望に事業所が対応可能な範囲で支援している。利用者が日常生活の中で楽しみが得られるような機会を作っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの利用者が同法人の病院をかかりつけ医としている。月に2回の訪問看護による健康管理があり、気軽に相談できる関係を築いている。急変時は、家族にも連絡を取り、適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化のケアの指針はあるが、現段階では、重度化や看取りのケアは、同法人の施設でお願いする方向で考えている。利用者や、家族の希望の把握や終末期ケアに関して職員との検討会が十分でなく、関係者間での方向の統一は図れていない。	○	現段階では、「重度化や終末期に向けた支援は難しい」の方針であるが、全職員で機会あるごとに色々なケースを想定し今後も検討を重ねていただきたい。また、家族に対しても、サービス開始時や家族会で検討会を重ね、段階的な合意を図ってほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の自尊心を傷つけない言葉遣いや接遇に関しては、職員採用時や定期的な職員全体会議で話し合い確認しあっている。慣れすぎた言動や行動を慎み尊敬の念を持って対応するように心がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを崩すことなく、その方の体調や希望に沿いながら支援している。今年度のケアの目標に、「利用者本意の介護」を掲げ、日々ケアを振り返りながら支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	理念の中に「おいしい食事等生活上の楽しみを提供する」を掲げており、食事は、利用者にとって「唯一の楽しみ」の一つと認識している。メニューは利用者から聞いて作り、利用者と一緒に作りながら食事を一緒に楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	事業所のペースで入浴の曜日や時間を決めてはいるが、利用者からの要望や、利用者の状況に応じた毎日の入浴の支援は行っている。帰宅願望の強い利用者には、頃合を見ながら入浴をすすめており、不安や不穩の軽減につなげている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	近隣の保育園より、毎月園便りを園児が持参し交流する機会や保育園に立ち寄る機会があり、利用者の楽しみとなっている。また、同敷地内の老人保健施設にボランティアの訪問があるときは、一緒に楽しんでいる。ホーム内では、洗濯たみや茶碗洗いと利用者の状況に応じた支援が行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣にある保育園への散歩や園庭の散歩は出来るだけ行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	一階の部分は、鍵をかけない支援が出来ているが、2階に関しては、玄関から出たらすぐ階段となっており、転倒の危険性もあり、日中鍵をかけることがある。鍵を掛けることの弊害を職員は理解している。ケアの目標の一つに、「コミュニケーションの技術の向上により、身体拘束にならない言葉掛けの徹底」を掲げている。	○	利用者の安全確保も求められることであるが、同じように、鍵をかけることの弊害も利用者にとって重要なことである。ハード面を 変えることは難しいと思うが、今後も、鍵をかけないですむケアの体制を検討してほしい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、同敷地内の老人保健施設と合同で、避難訓練を行っているが、グループホーム単独での訓練は行われていない。	○	訓練を実施することで、ホームの構造上の避難経路の把握、避難誘導の方法が学ばれた、夜間勤務の職員の不安解消にもつながる。火災時の避難訓練は、是非実践していただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の好みや季節の食材を取り入れた料理が提供されている。一部、同じメニューが続く時もあるが、出来るだけ重ならないよう支援している。病状によりカロリー摂取制限のある場合は、他の利用者とは大きく見た目が変わらないよう工夫し提供している。医師からの情報を取り入れ対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の中央に利用者が集まる共同空間がある。リビングは、た畳のコーナーがあり、食後にくつろぐ空間がある。キッチンも、対面式となっており、利用者とは会話しながら、料理の準備が出来るような配置であった。空気のよどみもなく、採光も適切であった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者・家族からの持ち込みをお願いし、利用者の好みに応じた環境作りに努めている。部屋によっては、家族写真をうまく活用し利用者から見た関係図や家族の写真、テレビ等の持込もあり工夫されている。		